



いつからそこにいたのか、誰も知らない  
確かに見上げた人は数多(あまた)いる  
霊峰富士を彼方に望み、寝転んだ男  
仙石の、ここからしか見えない、その姿を。  
滴(したた)るような青緑は、夏  
暖かい色たちの、にぎやかなモザイク、秋  
何を想い、何を抱え込んだのか、  
急に老けて、胡麻塩頭の、冬  
ぼんやりと薄着で揺らめいて、春  
時折ではあるけれど、夕陽を浴び狂おしく輝く、朱(あけ)の色  
ひたすら移り気に生きるこの男。  
それでも、これほどの大男が眠れる町、箱根を  
信じてもいいのではないか。  
きっと安らげる、  
……癒(いや)される、と。